

# 消費動向調査

## 「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 1 調査の目的 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 2 調査の方法 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 3 調査の対象者 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 4 調査期間 平成29年9月1日(金)～14日(木)

山形/モニター世帯数: 538世帯  
有効回答数: 501世帯(回答率: 93.1%)  
秋田/モニター世帯数: 385世帯  
有効回答数: 349世帯(回答率: 90.6%)

### 消費指数

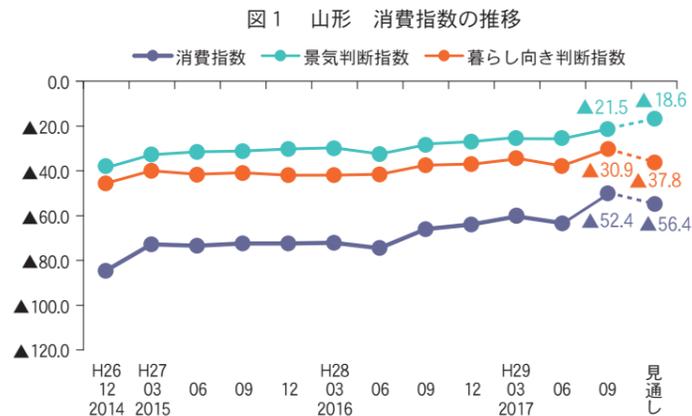
#### 第45回 山形県内家計の消費動向調査

##### ～消費マインドはここ3年間で着実に改善傾向～

消費指数は▲52.4(前期比11.0ポイント上昇)と、2期ぶりに改善となった。内訳は景気判断指数が▲21.5(前期比4.9ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲30.9(前期比6.1ポイント上昇)といずれの指数も上昇した。

今後の見通しは、消費指数が▲56.4(今回調査比4.0ポイント下落)と若干の悪化見込みとなっている。

消費指数の推移を見ると、平成26年9月・12月が▲80台、平成27年3月～平成28年6月が▲70台、平成28年9月～平成29年6月が▲60台、そして今回および今後の見通しが▲50台となっている。消費指数はなおマイナスではあるが、消費マインドはここ3年間で、着実に改善傾向を示していると判断できる。



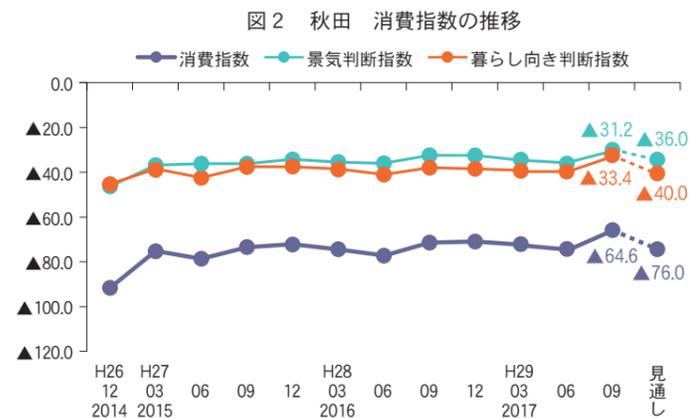
#### 第25回 秋田県内家計の消費動向調査

##### ～消費マインドは3期ぶりに改善するも、先行きは慎重な見通し～

消費指数は▲64.6(前期比9.5ポイント上昇)と3期ぶりに改善した。内訳をみると、景気判断指数は▲31.2(前期比4.1ポイント上昇)と3期ぶりに改善、暮らし向き判断指数は▲33.4(前期比5.4ポイント上昇)と4期ぶりに改善と、ともに改善した。

今後の見通しは、消費指数が▲76.0(今回調査比11.4ポイント下落)と悪化の見通しとなっている。

なお、秋田の過去3年間の推移を見ると上述の山形の場合のような顕著な改善傾向は見られない。



#### 【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き判断指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

### 景気と暮らし向き

#### 景気判断

山形の景気判断指数は▲21.5(前期比4.9ポイント上昇)と改善となった。景気判断指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」「雇用環境」「物価(日用品)」すべての指数で若干改善となっている。「景気(県内)」は小幅ながら5期連続の改善となっている。

秋田の景気判断指数は▲31.2(前期比4.1ポイント上昇)と3期ぶりに改善した。指数を形成する個別指数では、「景気(県内)」が3期ぶりに改善したほか、「雇用環境」が2期連続で改善、「物価(日用品)」が2期ぶりに改善となり、すべての項目が改善となった。

図3 山形 景気判断指数(内訳)の推移

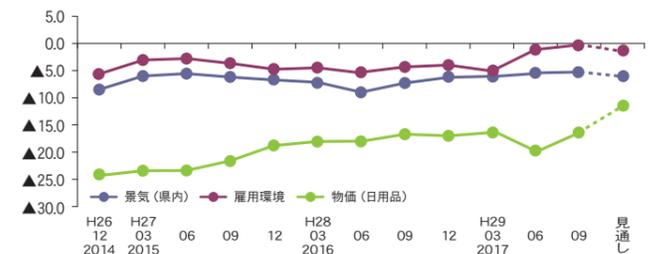
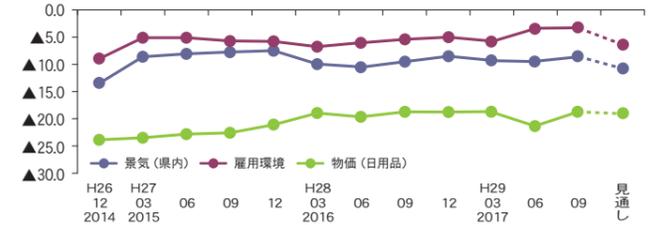


図4 秋田 景気判断指数(内訳)の推移



#### 暮らし向き判断

山形の暮らし向き判断指数は▲30.9(前期比6.1ポイント上昇)と改善となった。暮らし向き判断指数を形成する4つの指数については、「世帯収入」「保有資産」「お金の使い方」「暮らしのゆとり」いずれも若干改善となっている。

秋田の暮らし向き判断指数は▲33.4(前期比5.4ポイント上昇)と4期ぶりに改善した。指数を形成する個別指数は、「世帯収入」「保有資産」「お金の使い方」「暮らしのゆとり」すべての項目で改善となった。

図5 山形 暮らし向き判断指数(内訳)の推移



図6 秋田 暮らし向き判断指数(内訳)の推移



#### 家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が500千円と前年同期比で千円の減少となり、支出面では支出合計が429千円と前年同期比で10千円の増加となった。

この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は85.9%となり、前年同期に比べて2.1ポイントの上昇となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が498千円と前年同期比で12千円の増加となり、支出面では支出合計が450千円と前年同期比で53千円の増加となった。

この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は90.5%となり、前年同期に比べて8.7ポイントの上昇となった。

図7 山形 家計収支と平均消費性向の推移

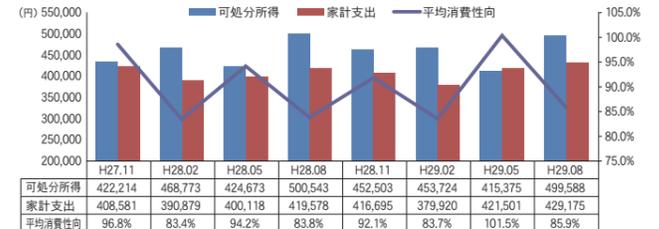


図8 秋田 家計収支と平均消費性向の推移

